



2027年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年10月15日

東

上場会社名 ジェイフロンティア株式会社

上場取引所

コード番号 2934

URL <https://jfrontier.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員

(氏名) 中村 篤弘

取締役執行役員CFO

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画本部長兼
コーポレート本部長

(氏名) 樋口 雄也 (TEL) 03-6427-4662

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年5月期第1四半期の連結業績(2026年6月1日～2026年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年5月期第1四半期	5,899	18.0	236	89.7	83	—	68	—	△10	—
2026年5月期第1四半期	5,000	△7.9	124	5.6	△17	—	△4	—	△36	—

(注) 包括利益 2027年5月期第1四半期 △30百万円(—%) 2026年5月期第1四半期 △26百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年5月期第1四半期	△1.92	—
2026年5月期第1四半期	△6.90	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費+無形資産償却費

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年5月期第1四半期	9,594	1,498	12.5
2026年5月期	9,733	1,538	12.7

(参考) 自己資本 2027年5月期第1四半期 1,201百万円 2026年5月期 1,231百万円

(注) 当第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させた数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年5月期	—				
2027年5月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年5月期の連結業績予想（2026年6月1日～2027年5月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	26,500	19.2	1,700	76.3	1,050	250.1	1,000	148.3	550	—
										103.07

- （注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
2. 当第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。これに伴い、対前期増減率についても反映後の数値にて計算しております。
3. EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋無形資産償却費

※ 注記事項

- （1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- 新規 一社（社名） — 、除外 一社（社名） —

- （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

（注）詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご参照ください。

- （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

- （4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年5月期1Q	5,336,369株	2026年5月期	5,336,369株
② 期末自己株式数	2027年5月期1Q	149株	2026年5月期	149株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年5月期1Q	5,336,220株	2026年5月期1Q	5,220,164株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
- 監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(企業結合等関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用環境の改善やインバウンド需要の拡大などを背景に緩やかな回復基調で推移した一方、物価上昇や人手不足の長期化により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する医療・ヘルスケア市場においては、高齢化の進展に伴う医療需要の増加や医療従事者不足への対応を背景として、医療DXの推進が加速しております。また、健康寿命の延伸やセルフメディケーションに対する意識の高まりを受け、予防・未病領域に対する需要も拡大しております。さらに、近年相次ぐ自然災害を契機として、平時のみならず非常時においても継続的な医療サービスを提供できる体制整備の重要性が高まっており、オンライン診療やオンライン服薬指導をはじめとするデジタルヘルスサービスへの期待は一層高まっております。

このような事業環境のもと、当社グループは「人と社会を健康に美しく」を経営理念に掲げ、オンライン診療・オンライン服薬指導プラットフォーム「SOKUYAKU」を中核として、ヘルスケアサイクルのあらゆるプロセスが「SOKUYAKU」で完結する「SOKUYAKUヘルスケア経済圏」の構築を推進しております。

当社グループでは、「疾病期間」の短縮化と「未病・予防期間」の長期化を実現することで、健康寿命の延伸と社会保障費の適正化に貢献することを目指しており、健康な状態の維持・増進を目的とした未病・予防領域から、疾病時の診療・服薬支援、その後の健康管理に至るまで、一貫したサービスの提供を行っております。

SOKUYAKU事業においては、「いつでも・どこでも・誰でも」医師や薬剤師とつながり、必要な医療サービスを受けられる社会の実現を目指し、オンライン診療、オンライン服薬指導及び医薬品配送をワンストップで提供するプラットフォーム「SOKUYAKU」の運営を通じて、医療・医薬分野におけるデジタル化の推進と医療アクセスの向上を図り、患者の早期受診・早期治療による「疾病期間」の短縮化に取り組んでおります。

D2C事業においては、自社ブランドの医薬品、健康食品及び化粧品品の企画・販売を通じて、人々の健康維持・増進及び生活の質の向上を支援し、健康寿命の延伸に資する「未病・予防期間」の長期化に取り組んでおります。

また、B2B事業においては、クライアント企業向けの販促支援及びBPO（Business Process Outsourcing）サービスを提供しており、当社グループ各事業の成長を支える基盤として、「SOKUYAKUヘルスケア経済圏」の価値向上に寄与しております。

今後も、医療・ヘルスケア分野におけるデジタル技術の活用を通じてサービス機能の拡充を図るとともに、「SOKUYAKUヘルスケア経済圏」の提供価値の向上に取り組み、超高齢社会が抱える社会課題の解決に貢献することで、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,899,896千円（前年同四半期比18.0%増加）、EBITDA(注)は236,299千円（前年同期比89.7%増加）、営業利益は83,953千円（前年同四半期は営業損失17,239千円）、経常利益は68,885千円（前年同四半期は経常損失4,982千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は10,223千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失36,020千円）となりました。

（注）EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋無形資産償却費

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	外部顧客への売上高（千円）			セグメントEBITDA（千円）		
	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減率 （%）	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減率 （%）
メディカルケアセールス事業	1,278,621	1,507,998	17.9	77,880	152,557	95.9
ヘルスケアセールス事業	1,411,911	1,293,110	△8.4	142,010	△12,961	—
ヘルスケアマーケティング事業	2,309,972	3,098,786	34.1	19,749	190,367	863.9
調整額	—	—	—	△115,099	△93,664	
合計	5,000,505	5,899,896	18.0	124,540	236,299	89.7

(メディカルケアセールス事業)

メディカルケアセールス事業においては、医薬品のD2C（EC・通販）と、オンライン診療・オンライン服薬指導・医薬品の宅配をワンストップで提供するプラットフォーム「SOKUYAKU」を展開しています。

医薬品のD2C（EC・通販）においては、当社主力商品である防風通聖散や防己黄耆湯錠SX等の生漢煎®シリーズの漢方（第2類医薬品）の売上が業績を牽引しており、売上高及びEBITDAが前年同期比で増加しております。

「SOKUYAKU」においては、今期から本格的に実施したクリニック・薬局向けのシステム利用料の価格改定（従来の利用件数に応じた従業課金に加えて、初期費用・月額利用料を請求）の影響による収益性の改善が進んでおります。さらに、健康経営を推進する法人向けの福利厚生サービス「SOKUYAKUベネフィット」が業種を問わず多様な法人顧客からサービスの有用性が評価されており、導入企業数も着実に増加しております。

その結果、セグメント売上高は1,507,998千円（前年同四半期比17.9%増加）、セグメントEBITDAは152,557千円（前年同四半期比95.9%増加）となりました。

(ヘルスケアセールス事業)

ヘルスケアセールス事業においては、第2四半期以降の売上高に寄与する新規定期顧客の獲得を目的に広告投資を強化した結果、EBITDAはマイナスで着地いたしました。

その結果、セグメント売上高は1,293,110千円（前年同四半期比8.4%減少）、セグメントEBITDAは△12,961千円（前年同四半期は142,010千円）となりました。

(ヘルスケアマーケティング事業)

ヘルスケアマーケティング事業においては、主にヘルスケア関連のD2C事業者に向けた著名人のキャスティング等によるブランディング支援、テレビショッピング等を活用したマーケティング支援、ダイレクトメールマーケティング、物流業務などのBPOサービスが業績に貢献いたしました。

その結果、セグメント売上高は3,098,786千円（前年同四半期比34.1%増加）、セグメントEBITDAは190,367千円（前年同四半期比863.9%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ18,584千円増加し、6,097,689千円となりました。これは主に、売掛金が59,271千円、仕掛品が67,792千円、前払費用が69,321千円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が127,543千円、商品及び製品が45,471千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ157,513千円減少し、3,497,189千円となりました。これは主に、有形固定資産の増加1,176千円、無形固定資産の減少140,160千円、投資その他の資産の減少18,530千円によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ52,735千円増加し、5,738,432千円となりました。これは主に、買掛金が113,199千円、未払金が67,135千円、前受金が47,642千円それぞれ増加した一方で、未払費用が32,427千円、未払法人税等が121,994千円、未払消費税等が25,671千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ151,689千円減少し、2,357,980千円となりました。これは主に、長期借入金が121,832千円、その他固定負債が29,910千円それぞれ減少したことによるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ39,974千円減少し、1,498,466千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少10,223千円、その他有価証券評価差額金の減少20,337千円、非支配株主持分の減少9,414千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月期の通期業績予想につきましては、2026年7月15日に公表いたしました「2026年5月期 決算短信」をご覧ください。なお、上記の連結業績予測は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予測数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,158,254	2,030,710
売掛金	1,738,208	1,797,479
商品及び製品	1,575,059	1,529,588
原材料及び貯蔵品	142,609	140,992
仕掛品	128,039	195,832
前払費用	164,416	233,737
その他	184,639	181,688
貸倒引当金	△12,122	△12,338
流動資産合計	6,079,104	6,097,689
固定資産		
有形固定資産	153,599	154,776
無形固定資産		
のれん	1,518,493	1,458,833
顧客関連資産	1,202,735	1,119,068
その他	34,748	37,915
無形固定資産合計	2,755,977	2,615,817
投資その他の資産	745,126	726,596
固定資産合計	3,654,703	3,497,189
資産合計	9,733,808	9,594,879
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,197,429	1,310,628
短期借入金	2,106,770	2,106,770
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
1年内返済予定の長期借入金	1,136,896	1,143,318
未払金	565,950	633,085
未払費用	147,257	114,830
未払法人税等	217,436	95,442
未払消費税等	88,049	62,378
前受金	158,707	206,349
賞与引当金	2,850	8,202
ポイント引当金	2,625	3,028
その他	41,724	34,398
流動負債合計	5,685,696	5,738,432
固定負債		
社債	40,000	40,000
長期借入金	1,987,490	1,865,658
資産除去債務	33,457	33,510
その他	448,722	418,811
固定負債合計	2,509,670	2,357,980
負債合計	8,195,367	8,096,412

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	665,644	665,644
資本剰余金	3,184,408	3,184,408
利益剰余金	△2,599,420	△2,609,644
自己株式	△220	△220
株主資本合計	1,250,412	1,240,189
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△18,754	△39,091
その他の包括利益累計額合計	△18,754	△39,091
新株予約権	1,209	1,209
非支配株主持分	305,574	296,160
純資産合計	1,538,441	1,498,466
負債純資産合計	9,733,808	9,594,879

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年6月1日 至 2026年8月31日)
売上高	5,000,505	5,899,896
売上原価	2,877,578	3,409,899
売上総利益	2,122,927	2,489,996
販売費及び一般管理費	2,140,166	2,406,042
営業利益又は営業損失(△)	△17,239	83,953
営業外収益		
受取利息	3,697	3,332
受取配当金	3,666	701
投資有価証券売却益	22,187	6,809
その他	9,827	3,505
営業外収益合計	39,379	14,349
営業外費用		
支払利息	18,183	24,569
為替差損	14	—
資金調達費用	7,479	—
貸倒引当金繰入額	174	230
その他	1,271	4,616
営業外費用合計	27,122	29,417
経常利益又は経常損失(△)	△4,982	68,885
特別損失		
店舗閉鎖損失	—	6,918
特別損失合計	—	6,918
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△4,982	61,966
法人税等	22,294	69,685
四半期純損失(△)	△27,276	△7,718
非支配株主に帰属する四半期純利益	8,743	2,504
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△36,020	△10,223

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年6月1日 至 2026年8月31日)
四半期純損失(△)	△27,276	△7,718
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	665	△22,506
その他の包括利益合計	665	△22,506
四半期包括利益	△26,611	△30,224
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△35,421	△30,560
非支配株主に係る四半期包括利益	8,810	335

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法により計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	メディカルケア セールス事業	ヘルスケア セールス事業	ヘルスケアマー ケティング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,278,621	1,411,911	2,309,972	5,000,505	—	5,000,505
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,688	5,395	11,118	19,202	△19,202	—
計	1,281,309	1,417,307	2,321,091	5,019,708	△19,202	5,000,505
セグメント利益	65,829	27,518	4,591	97,939	△115,178	△17,239

(注) 1. セグメント利益の調整額△115,178千円は報告セグメントに含まれない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2026年6月1日 至 2026年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	メディカルケア セールス事業	ヘルスケア セールス事業	ヘルスケアマー ケティング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,507,998	1,293,110	3,098,786	5,899,896	—	5,899,896
セグメント間の内部売上高 又は振替高	451	3,151	11,992	15,596	△15,596	—
計	1,508,450	1,296,261	3,110,779	5,915,492	△15,596	5,899,896
セグメント利益 又は損失(△)	141,369	△104,403	140,710	177,676	△93,723	83,953

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△93,723千円は報告セグメントに含まれない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれん及び顧客関連資産を除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれん償却額及び顧客関連資産償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2025年6月1日 至2025年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2026年6月1日 至2026年8月31日)
減価償却費	9,575千円	9,018千円
のれん償却額	57,494千円	59,660千円
顧客関連資産償却額	74,710千円	83,667千円

(企業結合等関係)

(企業結合に係る暫定的な処理の確定)

2025年9月19日に行われた株式会社shake-handsとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において、取得原価の当初配分額の見直しが反映されております。

この結果、前連結会計年度末の連結貸借対照表において、のれんの金額は258,245千円減少し、顧客関連資産は406,702千円、繰延税金負債（固定負債その他）は144,094千円それぞれ増加し、利益剰余金は4,362千円減少しております。